

日本家政学会
被服構成学部会誌

第42号

令和3年3月

目 次

ごあいさつ	1
令和2年度 被服構成学協会 総会	2
令和2年度 被服構成学協会公開研究例会報告	3
日本家政学会 功労賞を受賞して—家政学会に関わって約半世紀—	5
日本家政学会 学会賞を受賞して	6
若手研究者研究紹介	
マスク一体型防災服の開発研究の取り組み	
— マスク形状および素材による外気漏れの検証 —	7
「オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会」報告	9
令和2年度 研究動向（修士論文テーマ，科学研究費補助金研究課題）	11
オンラインでの実習授業の報告	12
会務報告	19
令和元年度 被服構成学協会 夏期セミナー収支報告書	21
令和元年度 被服構成学協会 収支計算書	22
貸借対照表・監査報告書	23
令和2年度 被服構成学協会 収支予算書	24
お知らせ	25
ご案内 令和3年度 夏期セミナー予告	26
被服構成学協会 規約	27
被服構成学協会 申し合わせ	29
令和2・3年度役員	30
被服構成学協会入会申込書および変更届，退会届	31

ごあいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会
部会長 森下 あおい（滋賀県立大学）

昨春からの世界的な COVID-19 感染パンデミックの広がり、学会の活動に大きな影響を与えました。感染予防のため5月に予定されていた年次大会は中止となり、被服構成学部会においても2月の研究例会に続いて、8月に予定していた夏期セミナーを中止せざるを得なくなりました。

一方で、部会として大変嬉しい受賞のニュースがありました。布施谷節子先生が日本家政学会の功労賞を、川端博子先生は学会賞を受賞されました。永年にわたり研究活動と教育活動にご尽力され、ともに本部会の部会長を務められました。あらためて敬意を表しますとともにお祝い申し上げます。また奨励賞として高橋美登梨先生が受賞され、若手の研究者としてこれからの活躍が大いに期待されます。

さて部会の総会は、学会の年次大会が中止されたことで延期しておりましたが、8月下旬にオンライン形式で、部会員の皆様に議事をご審議いただくことができました。ようやく予算を修正して新体制を整え、運営委員会での話し合いを重ねながら、企画の先生方を中心に新たな計画を立て、今年度の活動を開始いたしました。

まず9月19日には、情報交換会をオンライン方式で実施しました。ここでは前期に行われた遠隔授業の方法や問題点などの現状を事前にアンケートでお聞きし、事例報告や意見交換を行いました。言うまでもなく今年の前半の教育現場は、これまでに経験したことのないような学生への対応が、突然、迫られました。毎日がゼロからのスタートのような体制で臨まなければならなかった授業の実情を、各先生方の迅速な協力によって報告をしていただき、さまざまな情報提供がなされました。今回、本誌にも授業の取り組みについて、多数の先生方にその教育内容を寄稿していただいております。ご多忙の中での部会の先生方の快いご協力に、あらためてお礼申し上げます。

さらに2021年2月20日の研究例会では、ドイツ国立プフォルツハイム大学教授の近藤保氏に、マドレーヌ ヴィオネの作品の時代背景と解説と幾何学的なドレスのドレーピングの演習をしていただきました。対面での相互の行き来が難しくなったなかで、オンラインによる演習も伴った講演は、画像を通じて得られる充実した内容であり、オンライン企画によって部会の研究を前向きに活かすことへの可能性を強く感じました。

こうして年間の部会活動を進めてきましたが、実践的な教育が必須の被服構成学分野においては、昨年1年間の教育を検証しながら、今後もますます新しい学習の試みを行うことも求められると考えます。

そこで今年度の夏期セミナーは、副部会長の田中早苗先生を実行委員長として、「被服構成学の教育・研究に活かすビデオコンテンツ」(仮題)のテーマで、令和3年8月下旬にオンライン開催をしていただくことになりました。個人だけではなかなかとり組みにくい内容や疑問を、共に体験して考える機会になればと思います。是非、多くの方にご参加していただきますようお願いいたします。

残念ながら、現段階ではコロナ禍の感染は収束とはいええない状況にあります。本部会としてはこれまでの被服構成学分野の研究の基盤を大事にしながら、新しく変化する社会状況に対応できるように活動を進めてまいりたいと考えております。この1年間で皆様にとりまして良い年になりますように祈念いたしますとともに、本年度も部会の活動にご協力賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。

令和2年度 被服構成学部会 総会

日時：令和2年8月29日（土）～9月3日（木）（メール会議）

令和2年度被服構成学部会総会は、本大会中止のため、メール会議で行った。

総会次第

1. 議 事

- (1) 令和元年事業報告
- (2) 令和元年度会計報告
 - ① 令和元年度収支決算報告
 - ② 令和元年度貸借対照表
- (3) 令和元年度会計監査報告
- (4) 令和2年度事業計画（案）
- (5) 令和2年度予算案

2. 報 告 事 項

- (1) 学会功労賞，学会賞，奨励賞の受賞
- (2) 名誉会員について

上記の議事について審議し、承認された。

令和2年度 被服構成学部会 公開研究例会報告

「ヴィオネから学ぶ多様化する社会でのファッションのあり方」

京都女子大学 渡邊 敬子

本年度の公開研究例会は、2021年2月20日（土）16時から19時までの3時間、Zoomによるオンラインでドイツと日本をつないで近藤保先生にご講演をいただいた。新型コロナウイルスの影響でいずれの学会でもオンライン開催を余儀なくされる中、それならば普段はお招きできない海外在住の方に講演をお願いしようという企画である。近藤先生はドイツハンブルク「YUCA」のデザイナー、パタンナーを経て、現在はドイツ国立プフォルツハイム大学ファッションデザイン科教授、私立ベルリンファッション大学 AMD アカデミー・モード・アンド・デザインの教授であり、ヨーロッパや中国の企業とのデザイン活動のほか、裁断ボディ「spur」をキイヤと共同開発されるなど幅広く活躍されていらっしゃる。

今回の講演は、「The Anatomy of Fashion design (ファッションデザインの解剖学)」シリーズから、ヴィオネをテーマに、戦前に多く活躍していた女性のデザイナーが、なぜ戦後には、急激に数を減らしていったのか、そのなかでヴィオネがどのようにしてモードの世界の頂点へたどり着くことが出来たのかを、時代背景や彼女の服作りの技術とともに解説していただいた。

まずは、1876年の彼女の生い立ちから18歳での結婚、そして、出産とその子供を亡くした事実について語られ、当時の乳母の制度について説明された。当時、上流階級でない限り、働く女性は農村などに住む「持ち帰り乳母」に子供を預けるしかなく、その環境は厳しいものであったそうだ。子供を亡くしたことに心を痛めたことが、フランスからイギリスに渡るきっかけになったのだろうと考察された。イギリスではケイレリーというアトリエにたまたま職を得て、1900年のパリ万博の翌年に帰国してパリのナンバー2アトリエのキャロ姉妹、世界一のメゾンと言われるドゥーセで主任兼デザイナーとして活躍した後に、独立する。この過程で東洋美術やジャポニズムの影響を受けている。また、彼女自身も着物が描かれた絵をたくさん所有しており、後に直線裁ちで、帯状の生地を巻くことで着る人の体形に合わせられるワンサイズを発表するなど着物からアイデアを得ていることが分かる。また、ドゥーセでは富裕層の顧客を得たり、経営をも学んでいる。これらに加えて、ギリシャ、エジプト文化、異分野のタヤートやダンカンなどの影響を受けてデザインを発展させている。近藤氏は、偶然も含めて彼女の出会ってきたものを理解して初めてデザインが理解できるのだ、美術館に飾ってあるものを見てデザインをまねしてもあまり意味がないと語られた。



ヴィオネやシャネルの人生から学べるもの

- ・ デザインの簡素化
- ・ デザインのインスピレーションプロセス
- ・ 女性起業家としての成功と経歴
- ・ 女性の向上心と経済的な自立の前例

フランスで日曜労働の禁止が法律で規定されたのが1906年
1日の労働時間は12時間から15時間にわたり、休日や休暇もなく、場合によっては日曜休日もない状態

20世紀初頭の過酷な労働環境

自動機 無料の宿泊 社内娯楽	高価格 会社の定額 無料の通勤車	従業員との親わりの高い労働条件
----------------------	------------------------	-----------------

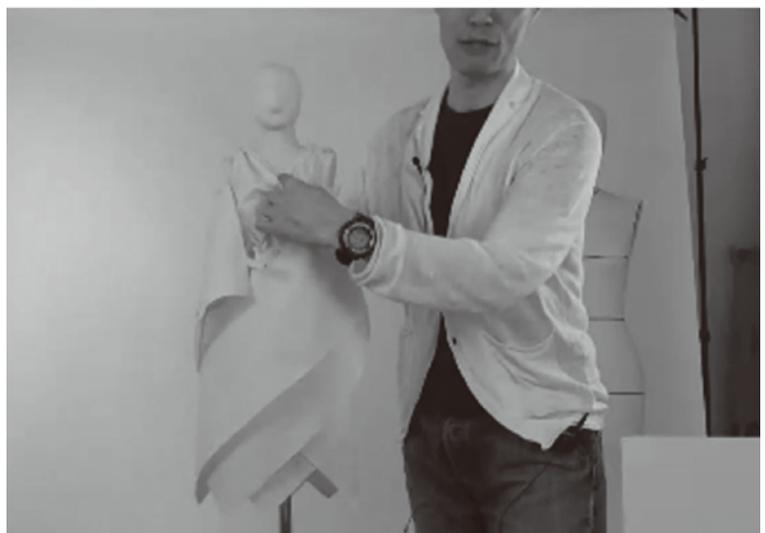
そして、独立後、ヴィオネのメゾンでは「有給休暇・無料の託児・社内研修・出産休暇・食事の完備・無料の医務室」などの手厚い福利厚生を提供する。これは自身が経験した苦労を社員にさせないためと考えられる。しかし、ヴィオネはこの手厚い福利厚生のために経営が圧迫されるという結果になっている。これとは対照的に、同時期に活躍したシャネルは労働条件について常に社員と争った末、ついにはトップでいられなくなった。このような点からも、学ぶところがあるのではないかと話された。

後半は、1920年代の幾何学的なドレスを折り紙の要領でドレーピング実習した。参加者には、約1/4の型紙が事前に送られており、各自がトワールなどの生地を用意するのだが、実は30cm×18cm長方形の布4枚のみで、これに横幅の1/2と1/3の位置に縦に直線を引いただけである。2枚の布をずらして重ねてピンでとめていく、重なるの不要な部分は切り取る、もう2枚も同じ作業をして、それらを組み合わせる。すべてが幾何学的な直線で構成されている。最後に、少し難しいが、平面であった布を筒状に留めつけ、肩の部分をギャザー状に留める。そうすると縦地の目を通した長方形の布が、バイヤス方向に垂れてギザギザの複雑なヘムと胸元にドレープのあるドレスになる。これに紐を通して服が完成する。

この後、事前に参加者をお願いしていたアンケートの分析結果を交えながら、大学の教育について先生のお考えを話された。今回のアンケートでは、学生は入学後の学びを理解して入学し、その期待通りの教育が受けられていると感じているという。一方、学生は自身の起業については考えておらず、教育も提供されていない。しかしながら、これからは日本でも終身雇用が続くとは考え難く、ドイツなどヨーロッパでのアンケートでは自身で起業すると回答する学生が多いことから、日本でも考えていく必要があるのではないかと述べられた。

ご講演内容は被服構成学的な立場から非常に興味深いものであったが、これからの女性の働き方と教育を考えさせられる良い機会にもなった。貴重な講演に感謝したい。

後日、近藤先生は「あらためて思い返してみると、『女性』というキーワードにこだわりすぎて、ビジネスの紆余曲折については深く話せなかったのが残念です。バイアスカットにこだわるあまり、工賃は高くなりすぎ、時代の変化に乗り遅れ、やがて泥沼から抜け出せなくなるヴィオネの最後は今のデザイン業界でも同じことが起こっているという話がもう少しできればよかったかなと思っています。」とおっしゃっておられた。まだまだ、たくさんの興味深いお話がありそうだ。近藤先生はYoutubeなどでドレーピング技術を公開しておられ、帰国時には「The Anatomy of Fashion design」シリーズの講演をなさっているので、興味のある方はインターネットなどで検索してみてほしい。



日本家政学会 功労賞を受賞して —家政学会に関わって約半世紀—

元和洋女子大学 布施谷 節子

この度、日本家政学会功労賞を受賞いたしました。身に余る榮譽に困惑しながらも、これまでお世話になりました多くの皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。4年前に家政学会賞をいただきました折にも構成学部の皆様からたくさんのお祝いのお言葉を頂戴いたしました。この度は、コロナ禍の中で、家政学会の年次大会をはじめ、被服構成学部の総会も夏期セミナーなども中止またはリモートになり、皆様に直接お会いする機会がなくなりました。功労賞受賞につきましても、学会からメールで連絡をいただき、学会誌に掲載する写真を送るようとのことで、学会誌の掲載記事を見てああそうなんだというような具合で、実感がないままでおりましたが、後日、賞状が送られてきてようやく納得したというような具合でした。

私自身の受賞よりも何よりもうれしかったのは、同時に前部会長の川端博子先生が学会賞を受賞されたことでした。年次大会がなかったことで、受賞記念講演もなく残念だと思っていたところ、お茶の水女子大学の被服関係の同窓会である「すおうの会」が ZOOM で講演を企画してくださったところに、構成学部の皆様にも参加していただけることになり、多くのご参加を得て、川端先生のご研究の一端をご一緒に拝聴できたことは大変うれしいことでした。

家政学会賞にしても功労賞にしても、構成学部の多くの諸先輩方が受賞していらっしゃいまして、私もその一端に連なることができましたことに、戸惑いながらもうれしく存じます。功労賞の受賞規定にはいろいろな条件があるようです。以前、理事会に連なっていた時にはそれなりに理解していたつもりでしたが、他人事だと思っていました。私自身がこれまで学会に貢献してきたかどうかについて考えたことはありませんでした。それは、いつも同じ柳澤研究室出身の高部先生、大村先生、猪又先生方から研究活動、学会活動にお誘いいただき、後について見習いながら、自分に与えられた場所で、与えられた役割をひたすらこなしてきただけでしたから。それが、結果として学会に功労があったと認められたということだと思います。家政学会に入会したのは昭和47年ですから、半世紀近く家政学会にお世話になっていることになります。研究発表も論文投稿も他の学会よりもほとんど家政学会でした。家政学会の関東支部会、論文編集委員会、理事会などの役員、代議員、年次大会の実行副委員長などいろいろな仕事をいたしました。私が最もやりがいがあり、しかも楽しかったのは構成学部の運営委員や夏期セミナー実行委員や部会長の仕事でした。構成学部の私は私にとって居心地のよい実家のようなものです。構成学の立場から被服学の在り方、家政学の問題点や可能性について部会の皆様と色々と話し合い、セミナーや部会誌の企画を練ったことは楽しい思い出です。家政学会の年次大会では他の領域の方々とも交流できました。理事会では、家政学が社会の中で果たすべき役割や存在意義をいかに発信すべきかをいつも議論していたように思います。コロナ禍をやがて克服したとしても、今後とも暮らしや命のこと、多様性社会の在り方など、家政学の果たす役割は大きいと思います。部会の皆様には、部会の活動にとどまらず、お忙しい貴重なお時間を家政学会の活動にも割いていただければ幸いです。家政学全体の枠の中で、被服学、被服構成学の立場や役割が見えてくるように思います。

稿を終わるに当たり、たくさんのお話をさせていただき、これまで育ててくださった家政学会にそして被服構成学部に心よりお礼申し上げます。

日本家政学会 学会賞を受賞して

埼玉大学 川端 博子

令和2年度、「衣服の快適性の追究」で日本家政学会より学会賞を頂戴しました。年次大会が中止となって大塚美智子学会長からの賞状授与も、記念講演も実現しませんでした。お茶の水女子大学被服学関連学科同窓会（すおうの会）主催のオンライン公開講演の折には、被服構成学部会でも広報していただき、部会員の方々もご参加下さいましたこと、ありがとうございます。

「衣服は人が着るものなので、人と関わる研究がしたい」と初対面で恩師である故石川励造先生に話したのを覚えています。後日、衣服圧のテーマを頂いたのが快適性研究のスタートでした。卒論・修論・博士論文では、布の伸びに伴う二軸伸長引っ張り強伸度とそれを支える人体の曲率半径から衣服圧が算出できることを検証しました。ボディースーツなど補整下着の衣服圧と動作抵抗性、オーバーコートの重量による肩部への衣服圧など、拘束の状態に応じた手法を探りながら衣服圧を算出しました。しかし、結果を快適性向上に結び付けるに至らず、行き詰まりを感じていました。職場の改組も重なって悩んだ末に、ユニバーサルデザインの考え方にヒントを得て、「より多くの人に快適でやさしい衣生活の実現」に目を向けるようになりました。

受賞対象は、「衣服圧と衣服の拘束性」、「裏地に関する研究」、「授乳期の女性の衣生活支援」、「乳がん術後女性の衣生活の実態」など衣服の快適性に関わる一連の研究です。課題解決を目標として、共同研究者の協力を得て多面的なアプローチで守備範囲を広めることができました。満足できる内容ばかりではありませんが、研究の公開をするようにと恩師より教わって参りました。論文の審査を通して沢山ご指導いただきましたし、家政学会を中心に投稿してきたことが今回の受賞に繋がったと思います。恩師をはじめ共同研究者、研究室の学生や被験者の協力など沢山の方々と関わって今日まで研究を継続できましたものの、より多くの人に快適でやさしい衣生活の実現は道遠しであります。これからも地道に研究を続けて参りたいと思います。

平成31年度・令和元年度には部会長を務めましたが、先輩方より温かく導いていただき、また、若い方々がとても協力的・自発的で、気持ちよく運営させていただきました。コロナ禍で森下あおい部会長にバトンを渡すことになりましたが、時代の変化に対応させた今年度の活動を眺め、頼もしく感じました。

振り返ってみますと、学生の頃より、構成学部会で発表や執筆の機会を与えていただきました。途中で研究の方向を迷い、子育て中に活動を中断した時期もありましたが、温かく受け入れてもらい、いろいろな役割を果たす中で学んだことも多く、また、研究を共にする方々との出会いの場になりました。学会は知見の蓄積と公開の場であるとともに、人とつながる出会いの場、さまざまな分野・領域を融合させて知恵を産み出す場であることを改めて感じています。

これまでのご厚情に御礼申し上げますとともに、今後、ますますの被服構成学部会の発展を祈り、微力ながら活動に協力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

若手研究者研究紹介

マスク一体型防災服の開発研究の取り組み —マスク形状および素材による外気漏れの検証—

(元) お茶の水女子大学大学院 角田 千枝

1. 緒言

災害時には多くの瓦礫や火災現場付近を通り避難することが予測されるため、頭部以外の身体部分も危険にさらされるが、現在、それらを考慮した一般市民向けの防災用品はほとんど見受けられない。そこで筆者は、現在の備えよりも、より安全に避難できるような避難時の衣服を提案したいと考え、人体に悪影響を及ぼす粉じんの吸い込みを軽減させることを目指した「マスク一体型の防災服」の開発に取り組んでいる。

本研究では、試作サンプルがマスクとしての性能をどの程度有しているのか明らかにするために、市販されているマスクと試作サンプルを用いて、パーティクル（塵や埃）数による定量評価とアンケートによる官能評価を行った。

2. 実験方法

実験試料は、市販のマスクは不織布の家庭用マスク 3 種（2 つ折りの立体型、プリーツ型、プリーツ型ノーズクッション付）、不織布の使い捨ての防じんマスク 2 種（2 つ折りの立体型、カップ型）と、試作サンプルは難燃素材により製作したスタンドカラー型とプリーツ型の 2 種、計 7 種類を用いた（図 1）。いずれも、全てノーズワイヤー付きである。

測定には、防じんマスクの測定に対応できる全自動マスクフィットテスト（PORTA COUNT Pro+8038、米国 TSI 社製）（図 2）を用いて定量的な測定を実施した。本機器は、粒径 $0.02 \sim 1 \mu\text{m}$ のパーティクル数を外気中とマスク内を同時に測定することでフィット係数が算出される（フィット係数 = 外気のパーティクル濃度 / マスク内のパーティクル濃度）。プログラム上の 5 項目の運動検査（通常の呼吸、深呼吸、頭を左右に振る、頭を前後に振る、話す）を用い、各マスクおよび試作サンプルの装着時のデータを計測した。被験者は、満 18 ~ 30 歳の女性 20 名で、実験試料の 7 種を各 1 回ずつ装着し測定をした。その後、各マスクおよび試作サンプル装着による官能評価を行った。



図 1. 実験試料一覧

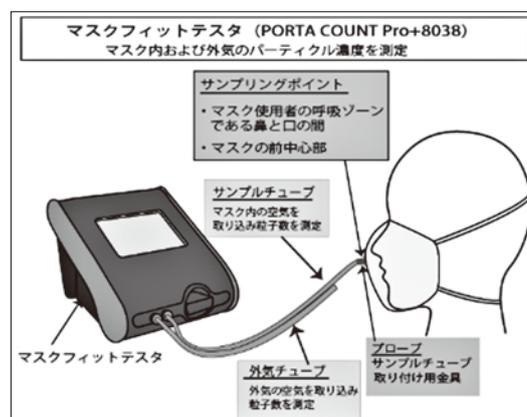


図 2. マスクフィットテスト

3. 結果と考察

運動検査により算出された運動検査別のフィット係数の平均値および標準偏差を図3に示す。フィット係数の平均値を用いて比較検討した結果、防じんマスクのカップ型の値が著しく高く、防じんマスクの立体型はカップ型には劣るものの、カップ型に次いで値が高かったことから、防じんマスクが漏れの少ない傾向のマスクであることが実証された。家庭用マスクのプリーツ型については、ノーズクッションの有無で値が大きく異なることから、ノーズクッションが鼻付け根位置の顔面とマスクとの隙間の漏れを軽減させるのに効果的であることが明らかとなった。試作サンプルのプリーツ型は、簡易な家庭用マスクよりも劣るが、試作サンプルのスタンドカラー型では漏れに関する効果が向上し、安価で容易に手に入る家庭用マスクとほぼ同等の効果があることが明らかとなった。

官能評価により、呼吸や深呼吸のし易さ、話し易さなどの呼気に関する感じ方は、フィット係数による定量評価で高評価であった防じんマスクと家庭用マスクのプリーツ型ノーズフィット付は低いことから、気密性が高いマスクほど官能評価が低くなることが分かった。左右および前後への動作においては、試作サンプルの評価が低かった。自由記述から、不快感の原因は衣服が頭部の動作に追従しないことによる「ずれ」によることが明らかとなった。着脱、ゴムの締め付け、全体的な付け心地は、防じんマスクの評価が低く、試作サンプルもやや低い、という似通った評価であり関連性が見受けられた。

マスクの種類により法的基準の有無が異なるため現行の品質表示のみでマスクの性能差を比較検討することは困難であるが、本研究のように同条件下にて実験を行うことで、各種マスクのパーティクルの漏れ入る差について明らかにすることができた。また試作サンプルも同条件下にて計測を行うことで、市販のマスクと試作サンプルを比較検討することができた。

4. 今後の展望

現在、本研究結果と別途実施した頭部動作に伴う人体計測の研究結果に基づき、大きな頭部動作でもずれにくい形状のスタンドカラー型の改良サンプルを製作済みである。この改良サンプルの着用対象は一般成人女性であるが、今後は男性や高齢者、子供などへ対象を広げてサイズやデザインを展開することで社会に普及させたいと考えている。なお、この改良サンプルは、現在、お茶の水女子大学にて特許出願申請中である。

また、本研究は令和2年に蔓延した新型コロナウイルスの流行以前の、一般市民がマスクに対して意識が低かった時点の研究内容である。そのため、マスクを身に付けて外出することが必須となったコロナ禍以降は、災害時以外の日常生活でも活用が期待できると考えている。

引用文献

角田千枝・近藤恵(2017) マスク形状および素材による外気漏れの検証—防災服開発のための基礎研究—, 服飾文化学会誌(論文編), 18(1):13-21
 角田千枝(2020) 一般成人女性のためのヘルメット・マスク一体型防災服の開発, お茶の水女子大学大学院, 2019年博士論文, pp1-145

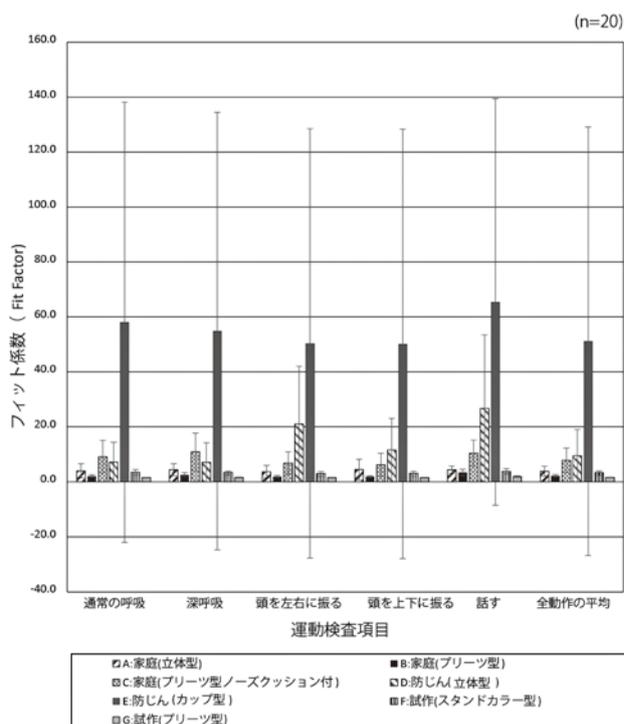


図3. 運動検査別フィット係数の平均値と標準偏差

「オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会」報告

情報交換会の概要に関して

横浜国立大学 薩本 弥生

新型コロナウイルス感染の防止のため、多くの大学では春学期の期間の大半が遠隔授業となった。春学期末の運営委員会での近況報告によりコロナ禍により被服構成学部会部会員は講義や被服実習系の授業は各大学の事情で対応は様々であったが多くの大学で Zoom や Teams を用いての遠隔方式での対応がなされていることが明らかとなった。授業ではこれまでにない対応が求められ、特に実習科目ではさまざまな試行錯誤のなかで授業が行われ、遠隔授業での課題が見出された。一方で、日々の授業の改善や新しい試みにつながったという声も寄せられた。そこでコロナ禍で秋学期も引き続き遠隔での授業対応が求められる中、夏休みの期間中に実施することが重要であるとの判断で、春学期に取り組み、工夫された先生方の対応事例を秋学期が始まる時期に合わせて、遠隔での実習授業に関する情報交換会を9月19日の土曜日に Zoom の遠隔方式で開催した。話題提供者2名に事例報告いただいた後、事前のアンケート調査の報告、最後にパネルディスカッションで質疑応答がなされた。参加者は25名で非会員2名が含まれていた。情報交換会の概要を以下に報告する。

【話題提供1 京都女子大学 渡邊敬子氏】

渡邊氏からは Zoom を使った遠隔での CAD 実習やオリジナルジャケットのパターン製作実習での工夫の数々をパワーポイントの資料で具体的に示していただきながら紹介いただいた。CAD 実習では CAD ソフトを用いた遠隔実習でリモート機能により学生の CAD を教員が遠隔操作して指導することも可能とのことで遠隔の利点が垣間見られた。被服製作実習では教員の縫製指導の手元の演示指導のためにウェブカメラやビデオカメラで撮影するための機器としてアームや三脚等のご紹介や事前に撮影した動画をスマホで画面を確認しながら収録し、後から必要な部分を拡大して見せる等の編集用のソフトの紹介や撮影の工夫に関わる事例を紹介いただいた。

【話題提供2 武庫川女子大学 末弘由佳理氏】

末弘氏からは被服製作実習でオンデマンドでの CAD 実習と MEETS によるリアルタイム遠隔実習の内容を紹介いただいた。動画は重くなるため動画よりも静止画を多く使い、ワンピース等の製作実習ではパワーポイントに製作工程の主なポイントを静止画で演示したものを pdf にして事前に学生に資料を配信する方法で、リカちゃん人形を人体に見立て型紙作成や縫製指導の資料を作成されており、とても愛らしく製作意欲をかきたてるものだった。動画は時に流れてしまうため、的確な静止画で工程を示す方法の有効性が確認された。対面の時よりも学生が集中して製作に臨んでおり、例年と比較して遜色ない提出物の出来栄であったとのことだった。

【部会員への事前アンケートの報告 相山女学園大学 滝澤愛氏】

滝澤氏から部会員の事前アンケートの回答結果を集約し、ご報告いただいた（詳細は滝澤氏の報告参照）。

【パネルディスカッションとまとめ】

話題提供者の先生方に参加者から多くの質問が寄せられ、先生方に回答いただき、コロナ禍でも工夫をして学生の学びを途切れさせないための様々な工夫を改めて共有いただいた。また、すでに遠隔実習に取り組みされた参加者からもご自身の対応事例も紹介され、部会の先生方や参加者の皆さんが、コロナ禍で例年よりも授業準備に多くの時間を割かれ、追われて大変な苦労をされている様子が共有された。秋学期に向けての授業の工夫の仕方に関して多くの役に立つ情報を提供いただき、有意義な情報交換の機会となった。

「オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会」報告

遠隔アンケート結果について

梶山女学園大学 滝澤 愛

情報交換会に先立ち、google form で部会員に向けて行ったアンケート調査結果のデータは既に部会内で共有されているが、概要を以下に報告する。

【講義科目】

講義科目のアンケートには 11 名から回答を頂いた。

「昨年と授業内容や教材を変更しましたか。変更があれば変更点と理由を教えてください。」に対する回答で最も多かった声はパワーポイント(以降 PPT)のスライドに変更したというものであった。具体的には PPT の提示の仕方を変更した、音声付きの動画を配信した、学生が見て解るよう解説付きにした、図と参考事例を増やした、などスライドの内容や構成の変更が多かった。その他、資料が膨大な場合は書画カメラで提示した、動画資料に加え WEB のリンクなどを資料に追加した等、映像や動画などの追加や学生への教材提示方法の変更が挙げられた。「遠隔講義でよかった点」では、学生が繰り返し復習することが出来た、教材の提示がしやすかった、学生の進捗や様子がよく分かった、学生が積極的に質問した、の順で回答が多かった。逆に「難しかった点」では、教材作成に時間がかかった、が突出しており、教員の授業準備の負担が大きかったことに加え、遠隔では対応できないことがある、学生の反応・理解度・状況などが確認出来ないなど、遠隔による授業の数々の困難や苦悩の感想が挙がった。

【実習系科目】

実習系科目のアンケートは 26 名から、バラエティに富んだ様々な授業に関する回答が寄せられた。

まず、授業の形態に関する問い(複数選択可)に過半数以上がオンデマンドとオンラインを挙げた。そして対面授業との組み合わせが 37%、課題提出型は 29.6% であった。「遠隔講義でよかった点」では、講義科目同様、学生が繰り返し復習することが出来たが非常に高く、85.2% もの回答であり、遠隔授業のメリットであることが伺い知れた。次いで学生が授業に集中できたが 55.6% と過半数に上り、講義科目との差が顕著であった。その他、教材の提示がしやすかった、学生が積極的に質問した、学生の進捗や様子がよく分かった、の順で多く回答が有り、講義科目と同傾向であった。一方の「難しかった点」では、教材作成に時間がかかった、が 81.5% と講義科目同様突出しており、次いで 63% で道具やスペースなどの問題で家庭や下宿先では出来ないことがあったとの回答であった。その他、遠隔では対応できないことがある、など、こちらも概ね講義科目と同様の傾向が示された。また、実習に必要な用具・材料を各自購入させたため費用負担増、学生の予期せぬ誤りを見つけてあげられない、点検作業に 3 倍の能力など、実習科目ならではの難しさが挙がった。

【両科目】

通信や配信に使用された機器ソフトに関しては、双方共に Zoom、大学の LMS が多く、加えて実習系科目では YOUTUBE の活用が目立った。動画作成の機器はビデオカメラ、書画(現物)提示装置が多く、スマートフォンや WEB カメラ、キャプチャーボードの使用も見られた。動画編集ソフトに関しては数々のソフト名が挙げられ、色々なソフトを試したというコメントも有った。

今回のアンケートの回答は、突然の遠隔授業を暗中模索の中でも手探りをしながら前へと進めていったその苦労と、教育のための不撓不屈の精神、努力が端々から滲み出たものであった。

令和2年度 研究動向（修士論文テーマ・科学研究費補助金研究課題）

「令和2年度 修士論文テーマ」

「妊娠後期の働く女性のためのマタニティパンツの検討」

田中 あゆみ(指導:丸田 直美)共立女子大学大学院 家政学研究科 被服学専攻

「着物文化の継承を目指した教育プログラムー学校教育と生涯教育ー」

劉 嫣妮(指導:薩本 弥生)横浜国立大学大学院 教育研究科

「三次元形状データを用いたダイレクトパターンメイキングのための自然立位形状の推定」

横尾 優美(指導:大塚 美智子)日本女子大学大学院 家政学研究科 被服学専攻

「令和2年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究(B)

「アパレルの国際市場拡大に向けたユニバーサルな個別対応衣服設計システムの構築」

2019～2022年度, 研究代表者:日本女子大学 大塚 美智子

基盤研究(C)

「3次元ディスタンスフィールドに基づく未来型アパレル造形システムの開発」

2019～2021年度, 研究代表者:和洋女子大学 山本 高美

「新規の蓄光布を用いて視認性及び持続性に優れ社会的弱者の安全に配慮した蓄光服の創製」

2019～2021年度, 研究代表者:甲南女子大学 小野寺 美和

「アパレルCADシステムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係」

2019～2021年度, 研究代表者:武庫川女子大学 末弘 由佳理

「熱中症予防支援システム構築のための人-着衣-環境系の評価」

2020～2022年度, 研究代表者:横浜国立大学 薩本 弥生

「3Dバーチャルボディを生かした現代に求められる実物ボディ(人台)の開発」

2020～2022年度, 研究代表者:共立女子大学 丸田 直美

(注:継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対してお申し出頂いた分を掲載しました.)

オンライン授業 実践報告

「人体とパターンメイキング」

金城学院大学 伊藤 海織

1年生対象で、受講者数は28名だった。例年ならば、グループでマルチン計測器を使って身体計測をし、その計測値を用いて文化式成人女子用身頃原型・袖原型の製図・組立を行い、試着補正を行う。2020年度はグループでの身体計測で濃厚接触になる恐れがあると考え、原型製図に必要な箇所のみ各自が解説動画を見ながら自宅で計測した。原型製図・組立はオンデマンドで、試着補正は対面で行った。動画撮影には iPhone・スマートフォン用スタンド・ワイヤレスマイクを、編集ソフトにはDaVinci Resolve 無料版を用いた。

この科目では2016年度から、原型製図には宿題用としても授業時間内の解説用としても動画を用いていた。2020年度は対面授業が困難になり、写真添付のメールで質問に対応していたものの、仕上がってからでないで学生へのアドバイスができず、やり直しの工程が多くなったという困難はあった。しかしその点以外は例年通りであったと感じているため、本稿では通常の対面授業での動画活用例として述べさせていただく。作成した動画教材を今後活用するかどうかの参考としていただけたら幸いである。

作業工程の解説動画は、YouTubeの公開動画にした。主目的は、教員がいなくても学生が課題を進められるようになることであった。公開にすると学費を払っている意義を問われるが、これらの動画で説明しているのは方法であって市販の書籍でも入手可能な情報であること、学生にとってのアクセスの容易さを優先させたことから公開とした。さらに、教員にとっても動画へのアクセスが容易となるため、上級学年の授業で復習のための教材としても活用しやすくなった。

通常の対面授業でも動画を活用することの利点は、解説と机間巡視を同時に教員が行えることである。補助者が一人増えたのと同じなので、学生に対してより細かな対応が行えるようになった。

学生の学習態度については、教科書を見なくなる学生と見るようになる学生と両方がいた。教科書を見なくなる学生については、私の解説動画再生後に表示される関連動画をたどって自分で探求していく様子があるように見えなかった。一方で、動画視聴を面倒に感じるようになる学生もおり、彼女たちは教科書を見るようになった。動画を見ながら製図したことで教科書の解説に慣れたためか、自分で読み進められるようになっていた。

授業進度については、再生を止めたり巻き戻したりして、自分の理解度に応じたペースで製図を進めることができるので学生からは好評である。一方で進度にばらつきが出て授業運営はやりにくくなった。製図後の作業の説明はシラバスに合わせて各回の授業冒頭に行っていたが、学生が今取り組んでいる作業と教員の授業冒頭の説明に開きが出てくると、説明を聞く意欲が低下する傾向が窺えた。2020年度は製図後の作業の解説動画も作成したため、今後学生は身体計測と試着補正以外のすべての作業を自分のペースで進めることができるようになる。また試着補正は私と助手が同時に行っても2人組×2ずつしか見られないため、学生の進度にばらつきが生じることは都合がよくなってしまっている現状もある。

教材作成については、新たに説明を追加したいとき、学生が作業するタイミングで説明したければ動画を再編集する必要が生じることが困難な点である。



オンライン授業 実践報告

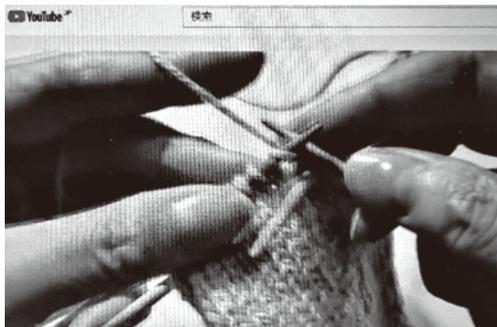
「ニットⅠ」

東京家政大学 大塚 有里

・**授業形式** メディア授業オンデマンド型（14回の授業内容を実質実施回数12回の中に入れた）・**使用機器** ノート PC, デジタルカメラ, 読書灯（動画撮影時）・**使用アプリケーション** YouTube, Google ドライブ, Google フォト（簡易動画編集）, Word, Excel ・**対象学年** 服飾美術学科3年生 ・**受講人数** ABクラス40名, CDクラス34名（*EFクラスは非常勤講師担当）・**学修時間の想定** 授業時間として（1回あたり）100分, 授業外学修として120～200分 ・**授業中のツール** 授業内容プリント（その回の実習目的や手順を記載した文字と写真のword資料）, 動画（5～15分程度のもの）40本/12回 ・**成績評価** 作品の写真提出, 実物提出, 毎回の小テスト, 事前・事後学修のレポート提出の総合評価 ・**1回分の準備時間** 動画作成数や授業内容にもよるが, 作品を編み進める分も含め平均5～6時間程度 ・**その他** 本学の学修支援ツール manaba の本格的な使用は初めてだったため, まず練習用コースを開設した。学生役を担ってもらった助手Yさんのお陰で, 機能の試行, 理解を得ることにつながった。二人で確認することで動画の不具合, コンテンツや公開日時の設定ミス等を事前に防ぐことができた。

・**まとめ** この授業は, 布帛とは異なるニットの構造（ループの連続）を理解しながら技術（棒針編み, かぎ針編み）を学ぶ実習科目である。本来の対面授業では学生の理解度を確認しながら省くことができた内容も, 動画撮影時には確認が取れないため, 初心者が一から始めることを念頭に「これくらいは理解しているだろう。」という考えを改めた。また技術の経験が既にある学生にとっても復習となるように, これまでの経験を基に質問が多く出る場面を想定しながら, 「丁寧に伝える。」ということ意識して文字資料や動画の作成を心掛けた。

初めは動画作成に慣れておらず失敗もあったが, 特に新しい機材などを導入せずに, 手持ちのデジタルカメラと読書灯を使用し, コロナ禍といえども不安がらずに出来る範囲でやろうと心に決めた。手芸関係の撮影の場合には, 1m四方のスペースがあれば充分である。撮影では, なるべく手元を大きく映し, 焦点がブレないように気を付けた。当初は, 素人作成の動画を公開することにとっても抵抗があり公開設定を2週間程度にしていたが, manaba での個人指導コレクションやメールでの公開延長の要望や質問が出始めたり, その場で見てあげられないというもどかしさが募り, 12回分の全てのコンテンツを最終の提出日まで公開することに変更した。その結果, 「何度でも自分のペースで動画を視聴できたことで完成にたどり着けた。」「対面授業では, 製作が早い人に併せて焦ってしまうが自宅でじっくり取り組めた。」という学生からの感想が届き, 途中で考えを転換して良かったと思う。動画の再生回数から自主的に学ぶ姿勢につながったことが読み取れ, 動画教材は対面授業が復活してからも有効な学修手段であることが実証されたと言えるのではないだろうか。また, 手作業の積み重ねである科目の特性から「他のレポート作成の息抜きにもなり履修して良かった。」という声から新たな科目の側面にも気づき, 今後の励みにもなった。



オンライン授業では学生も教員もストレスを抱えがちだが, 「自分がこの授業を受けたらどう感じるか。」という受講者側の視点に立ち, まずは「学生ファースト」ということを心に留めながら過ごした前期期間であった。

オンライン授業 実践報告

「アパレル構成学実習Ⅱ」

武庫川女子大学 末弘 由佳理

1. 教材として扱うアイテム

「アパレル構成学実習Ⅱ」(90分1コマ/週)は、被服構成学の基礎的な知識・技術を身につけることを目的とした被服構成学の実習科目であり、製作するアイテムとしてはノースリーブ、ノーカラーのワンピース1点としていた。当初の予定であった対面授業からオンライン授業に切り替わったことで仕上げ方法を数点変更した。大きく変更した箇所はファスナーの種類と衿ぐりの処理方法である。見返は、「アパレル構成学実習Ⅰ」で学んでおらず習得してほしい技術ではあるが、接着芯(要アイロン)が必要であることに加え、袖と衿部分を連続した形状の見返は、対面授業時においても理解度が低い現状があることなどから、本授業では、見返しの技術の習得よりも完成度を高く上げることが優先することとし、「アパレル構成学実習Ⅰ」で習得した技術であるバイアステープによる始末を採用することとした。また、ファスナーにおいては、コンシールファスナーを縫製する際には専用の押さえ金が必要であることから各家庭には道具がないという物理的側面から普通ファスナーに変更した。なお、対象学年は大学2年生、受講者は35名である。

2. 授業に用いた資料

遠隔授業開始が決定した4月時点では、個々の学生のネットワーク環境に関する情報はなく、可能な限りデータを抑えることも考える必要があった。本科目では、写真、イラスト等の静止画を中心に用いた資料を作成し、動画は基本的には使用しないこととした。一部、既習内容である基礎縫いの確認時にYouTubeにアップロードした動画教材¹⁾の視聴を促した。授業運営に使用したアプリケーションは表1の通りである。

授業形態はライブ型を基本として、PowerPointのスライドを用いて、Google Meetで解説を加えながら提示し、説明後にPDF形式で保存した同資料をGoogle Classroomで配信した。図1は配信した資料の一部である。

表1 「アパレル構成学実習Ⅱ」で使用したアプリケーション²⁾

教員から学生への連絡	学生から教員への連絡・授業時間外の質問	資料の事前配信	課題の提出	ライブ配信	出席確認	ライブ配信中の質問
Google Classroom	Google Classroom	Google Classroom	Google Classroom	Google Meet	Google Meet チャット	Google Meet マイク
Gmail	Gmail	Google Classroom	郵送	Google Meet	Google Form	Google Meet チャット



図1 説明に仕様したスライド(一部抜粋)

引用文献

- 1) デジタル教材「基礎縫い」, https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kateika/kyozai_digital.html(2021/01/13)
- 2) 末弘由佳理, 中西直美, 坂田彩美 (2021) 「オンライン授業による被服構成学実習の実践報告—生活環境学科「アパレル構成学実習Ⅱ」を事例として—」『武庫川女子大学 学校教育センター紀要』第6号, pp.188-206

オンライン授業 実践報告

「アパレル CAD」

東京家政大学 田中 早苗

アパレル CAD で学生が所持する様々なスペックの PC によるオンライン授業の実践結果を報告する。授業形式はライブ配信とオンデマンドの統合型、アプリケーションは東レ ACS 株式会社クレアコンポⅡのクラウドサービス・パターンメイキング、機器の OS は Windows7 または Windows10、対象学年は 3 年生、受講人数は 3 クラスで 116 名、担当教員は専任と助手で 1 クラス、非常勤と助手で 2 クラスの 4 名であった。

2020 年度前期授業は 5 月の連休明けから始まった。折しも東レ ACS 社は緊急対策としてクラウドサービスを企業向けに無償で提供し本学教員もその恩恵に与ってクラウドの月割という発想が浮上した。

第 1 回のガイダンスで授業を夏期集中対面で受けるか、オンラインクラウドで受けるか、LMS (以後 manaba) のアンケート機能で調査した。この頃大学はオンライン授業を推奨し学生に PC 貸与を勧めていた。何としてもクラウドに多くの学生を仕向けなければ、教室収容率 50%以下で夏期集中の日程には収まらないと予想した。アパレル CAD 演習室は PC54 台であるが CG 関係の授業も前期に開講されていた。調査の結果、オンライン希望者は 116 名、夏期集中は 13 名であった。CAD 履修者の PC 所持率は 100%であったが、PC の OS は Windows7 が 24 名、Windows10 が 94 名、その他・無回答が 11 名おり、この中に Mac 所持者と大学貸与の PC がまだ届いていない学生が含まれた。Mac 所持者と PC 貸与を受けない学生は夏期集中の対面授業を受けることになった。

クラウドの利用で最も懸念されたのがインストールであった。クレアコンポⅡは Windows7 以降にインストール可能であったが、学生の所持する PC のスペックは様々、そこで授業第 2 回目の命題はインストールであった。CAD アカウント一覧とダウンロード・インストールマニュアルを manaba に添付してコンテンツを 2 日前から公開し、どれだけの学生が自力でインストールできるかを試し、即日アンケートを取った。その結果、問題なくダウンロードし CAD を起動できたのは 84 名 (72.4%)、これは予想より好成績であった。ダウンロードできない・CAD を起動できない原因の多くはウイルス対策ソフトにあることが解り、ウイルス対策ソフトを一時解除させるため、家族と PC を共有している場合は家族の承諾を得るように勧めた。ダウンロードできても CAD のアプリケーションを起動できない原因もウイルス対策ソフトにあった。大学で推奨していた Symantec Endpoint のバージョン 14.0 では起動できてバージョン 14.2 では起動できない、大学貸与の PC はすべてこれに該当した。メーカーにリモートで対処法を探ってもらおうと数日後に手動で互換性チェックと管理者変更を行なう手順書が送られてきた。授業時間中は教員が対処した他、学生がメーカーのサイトから連絡をとりメールで対処してもらったのが 12 件、リモートによる対処は 4 件、これも当初の予想より好成績であった。授業終了後の学生の満足度は 80～100%が 31%、60～80%が 44%、40～60%が 18%、最後まで履修した学生は 108 名、履修中止は 8 名であった。CAD クラウドの可能性と対面・オンライン双方の利点を知る良い機会となった。

パソコンのOS	人数	%
CAD履修者	129	100.0
Windows 7	24	18.6
Windows10	94	72.9
その他・無記入	11	8.5

インストール指導直後	人数	%
オンライン希望者	116	100.0
ダウンロードできた	86	74.1
ダウンロードできない	19	16.4
無回答	11	9.5
CADを起動できた	84	72.4
CADを起動できない	26	22.4
無回答	6	5.2

インストール状況	人数	%
オンライン希望者	116	100.0
自力でインストール	84	72.4
教員による指導	16	13.8
メーカーによるメール	12	10.3
メーカーによるリモート	4	3.4

オンライン授業 実践報告

「ファッションデザイン演習Ⅱ」

相模女子大学 角田 千枝

生活デザイン学科の3年生を対象に、コロナ禍において初めてオンラインにより実施した立体裁断の習得を目的とした前期の授業事例を報告する。本学科は建築、プロダクト、ヴィジュアル、ファッションの4領域を複数学び、「総合的なデザイン力」を養う学科である。従って専門的な縫製知識や用具を有していない学生が殆どである。従って、立体裁断に必要となる用具一式を学生の自宅に送付した。従来はリアルサイズのヌードボディを用いていたが、手配の時間やコスト的に困難であったためハーフボディを用いた。

内容は、3つの単元にそれぞれ演習課題を設定した。本報では最終課題の「オリジナルデザインによるパターンメイキング」について説明する。授業時間は、90分2コマ続きで2回、計360分の内容である。2つの課題では、zoomにてリアルタイムに示範動画を見せながら実習したが、受信環境により映像が不鮮明な場合や、音声途切れ、各自の進捗が異なるなど、学生の申告により問題点が明らかとなったため、最終課題では、zoomによる説明と質問対応、進捗確認と、繰り返し視聴できる映像資料によるオンデマンドとを併用した。

授業の流れは、開始時間にzoomに参加させ出席を取り、概要を説明した後一旦解散する。その後、学生達は、事前に配信したパワーポイントによるテキスト及び映像資料(図1)を使用し授業時間内に自宅にて演習を行う。学生は、疑問点などが生じた場合は、その都度zoomに接続し、待機している教員から直接指導を受ける。授業終了10分前に全員zoomに再参加し、質疑の内容を共有し、次週の学習内容点を確認する。全ての授業をオンラインで終え、最終課題の提出は、対面授業がかなった10月に持参させた。配信した映像資料は、基本的な技法の他、オンライン授業であってもトレンドやデザイン性を養うことができるように、2020年SSおよび2020-21AWコレクション*より、5着分の衣装のドレーピングからパターン展開までの実演映像を収めYouTubeに限定公開(図1,2)した。

その結果を図3,4に示す。レポートから授業方法の改善を重ねたことで、円滑に実施でき、概ね授業目標を達成できたことが伺えた。実寸ボディとの違いによる難易度に言及し再度実寸で試みたいとの意欲を示している者もいた。また、学内展示をしたことでオンライン授業でも立体裁断の技術の習得が可能であったことを知らせた。

*:FASHIONPRESS,
<https://www.fashion-press.net/collections/>



図1 写真および映像資料 (samplA)



図2 写真および映像資料 (samplB-E)



図3 学生作品例



図4 学生作品 (展示風景)

オンライン授業 実践報告

「和服製作実習」

大妻女子大学短期大学部 中村 邦子

和服製作実習は、女物単衣長着（浴衣）を自分の寸法で製作し、着方・帯結びまでを実習してきた。

2020年度はコロナ禍の影響を受けて4月の授業は中止となり、第1回5月12日からオンライン授業となった。第3回目以降、前期すべてオンライン授業と決定したため、実物大の浴衣の製作を断念し、標準寸法（身長160cm、腰囲88cm、ゆき64cm）の縮尺1/4で縫い方は実物同様に製作することとした。浴衣の反物を広げて印付けを行う作業は一人暮らしの学生の部屋では難しいこと、実物大の反物を使用して新たにビデオ撮影するには緊急事態宣言が出されている中で、大学内での撮影が困難と判断したためである。幸い、「きもの文化の伝承と発信のための教育プログラム」（薩本弥生先生総括）のHPにおいて、授業で使用している教科書通りの縫い方が動画付きで説明されていたため、学生には実物の扱い方として参考にするように提示した。

自分の寸法を測定した後、割り出し寸法はExcelの表に入力し、標準寸法の縮尺1/4で製作することを周知した。製図や縫製方法については実物に忠実に行うこととし、印付けや和服特有の技法の運針、耳ぐけ、三つ折ぐけ、その他個々の縫い方を真上からビデオ撮影してYouTubeを作成した。縮尺1/4の浴衣の縫い方については、A3判用紙程度の範囲に収まるのでビデオ撮影は容易であった。作業の進捗状況を確認するため、毎回manabaのレポートにExcel段階製作レポートの提出を課した。浴衣完成後の着方・帯結びの説明もYouTubeで行った。着付けるボディ用に、500mlのペットボトル（1つの飲み口の部分は切り落とす）を2つ繋げ、実物の1/4になるよう頸椎から足首までの長さが33cmになるように調整したものをを用いた。500mlのペットボトルの周径は21.5cmでほぼ腰囲88cmの縮尺に相当であった。半幅帯にはリボン（幅4cm×90cm）を利用した。学生の感想には『オンライン授業となったが、ミニチュアとして製作ができたことがとても楽しかった。初めて着物を作り、難しいけれど作っているうちに名称やこの部分があそこになるのかなど着物についての興味が増えました。完成した時はとても嬉しかったです。』とあり、初めての試みであったが、新しいスキルを修得することができた。

授業形式：PPT資料、Zoom利用で各回の説明と質問の受付、細かい作業はYouTubeを利用した。

使用機器類：・パナソニック HD ビデオカメラ HC-V210M、動画編集ソフト HD Writer LE 2.0

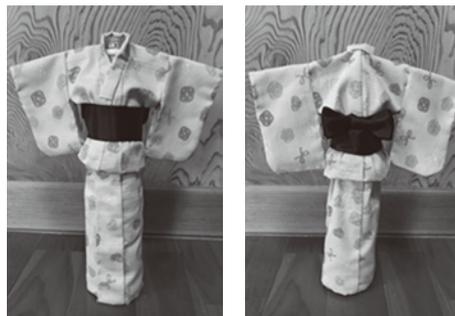
・サンワサプライ USB 書画カメラ 800万画素 CMOS オートフォーカス LEDライト搭載・Neewer カメラ三脚

対象学年：2年 前期開講全11

回 受講人数：26名

左・中央：学生作品

右：割り出し寸法計算表（縮尺1/4）



計測項目	女性標準値	標準寸法	1/4
身長(H)	152~166	166	40.0
腰囲(ヒップ)	88~98	88	22.0
ゆき	62~66	64	16.0

計測項目	女性標準値	寸法	
袖丈	45~55	53.3	13.3
袖口	23	23	5.8
袖つけ	23	23	5.8
袖幅	32~34	33	8.3
袖の丸み	2~13	10	2.5
着丈	130~142	136	34.0
身丈	154~166	160	40.0
衿下	78~82	84	21.0
おくみ下がりがり	23	23	5.8
身八つ口	15	15	3.8
衿肩あき	8.5~9	8.5	2.1
くりこし	2	2	0.5
肩幅	30~32	31	7.8
後幅	28~31	27.5	6.9
前腰幅	37	36.0	9.0
前幅	23~26	21.0	5.3
おくみ幅	15~16	15	3.8
合腰幅	15~16	15	3.8
えり山	5.5	5.5	1.4
剣先	6.5	6.5	1.6
えり先	7.5	7.5	1.9

オンライン授業 実践報告

「ファッション造形演習Ⅰ、ファッション造形演習Ⅱ」

名古屋学芸大学 水嶋 丸美

2020 年に入り新型コロナウイルス感染のニュースが報道されはじめ、最初はここまで世界中を震撼させる事態になるとは思いもせず、2 月末から出発する予定になっていた欧州への海外研修学生引率の準備をしていた。出発直前にイタリアの感染状況が急激に悪化したこともあり中止、そこからあつという間に国内でも感染が広まり、卒業式や入学式が中止され、前期授業の開始時期の度重なる変更を余儀なくされた。

本学では、演習や実習を中心とした学部・学科が多く、資格取得にも影響が出るため、例年通りの開講を予定していたが、緊急事態宣言が発令されたことにより、5 月連休明けから授業を開始することになった。その間に時間割の調整や授業内容の検討が行われ、オンライン授業の準備として、開講方法の検討や勉強会、それに合わせた教材準備と学生への教材等の発送などに追われ、5 月の授業スタートを迎えることになった。

本学では、e ラーニングシステムとして既に Moodle を使用していたため、講義科目に関しては、Moodle へ動画や授業のスライドや資料を添付し、各自視聴して課題提出することで出席の確認を行うオンデマンド型の授業を行った。担当している学部共通の講義科目では、担当者がオムニバス形式であったことや履修者も 250 名以上と多く、入学して間もない1年生が混乱しないように大学が推奨する形式で授業を実施した。Moodle は、アップできるデータの容量が限られているため、動画は Youtube の限定配信や Google ドライブを利用して配信した。

演習科目では、6 月からは対面授業が実施できると期待し、ライブ配信型の授業を行った。ライブ配信型の授業では、Zoom を利用して1年生 70 名を対象に授業を行った。対面授業では、35 名ずつ 2 クラスに分けて授業を行うが、他の授業との調整やライブ配信に支障が出た学生や理解できなかった学生のフォローの時間を作るためもあり、ライブ配信型の授業は、70 名同時に行った。ライブ配信型の授業では、主に市販のビデオカメラと三脚、キャプチャーボードを利用して PC へ動画を送り、さらに Zoom のカメラ機能で画面を回転させて実際に作業する向きと同じ向きで受講できるようにした。内容としては、基本的なアイテムの製図、各種デザインへの展開方法などである。その他、用具の説明や基本の手縫いなど手元を拡大できたことにより、例年に比べ学生の理解度も上がり、対面授業が始まってから提出された課題の完成度は大変高かった。さらに、リアルタイムでの視聴ができなかった学生への対応や復習用として、授業の動画を Google ドライブにアップしたことで、繰り返し視聴できるようにしたことも課題の完成度が上がった要因と考えている。

また、6 月から対面授業を開始したものの、三密を防ぐため 2 つの教室に分散して授業を行う事になったため、対面授業になってからも Zoom を利用して、スクリーンや学生個人のスマホや PC を活用し動画を配信して授業を行った。このまま対面で授業が行えると思っていた矢先、新型コロナウイルス感染者が発生したこともあり、急遽、希望者へミシンやロックミシンを送り、進捗や環境にも差があるため、オンデマンド型の授業へと切替えた。最初は Zoom を利用して動画を撮影していたが、Zoom で撮影した動画は画像が粗く細かい部分が見えないとの指摘もあったため、ビデオカメラで撮影した後、Windows10 フォトアプリで撮影した画像を編集し、さらにデータ容量を圧縮して動画を作成した。他のアプリも使用したが、無料であることや必要な編集が可能なことからこのアプリを選択した。現在では、学生も基本を身につけたこともあり、全て動画にせず、写真画像のスライド資料を配信し、オンデマンド型にすることで各自のペースで進められるようにしている。

会 務 報 告

1. 令和2年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時：令和2年8月29日（土）～9月3日（木）

開催方法：メール会議

② 令和2年度夏期セミナー

「被服構成学の楽しさーものづくりの実践例ー」

日時：令和2年8月19日（水）又は8月20日（木）

場所：名古屋女子大学

*中止

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：令和3年1月23日（土）・24日（日）

場所：東京都武蔵野総合体育館

*延期

④ 情報交換会

「オンラインでの実習授業の取り組みについて」

日時：令和2年9月19日（土）

開催方法：オンライン形式

⑤ 研究例会

「ヴィオネから学ぶ多様化する社会でのファッションのあり方」

日時：令和3年2月20日（土）

開催方法：オンライン形式

(4) 令和2年度事業計画（案）について

(5) 令和2年度夏期セミナーについて

(6) 令和2年度予算（案）について

(7) 部会誌第42号編集案について

(8) その他

② 第2回運営委員会

日時：令和2年8月8日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 予算案について

(2) 令和2年度研究例会について

(3) 部会誌42号編集案について

(4) HP更新について

(5) 総会時期について

(6) コロナ禍における授業体制について

③ 第3回運営委員会

日時：令和2年11月28日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 令和2年度研究例会について

(2) 部会誌42号編集案について

(3) 令和3年度夏期セミナーについて

(4) その他

④ 第4回運営委員会

日時：令和3年3月6日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 令和3年度夏期セミナーについて

(2) 令和3年度研究例会について

(3) 中学生創造ものづくり教育フェアへの支援と体制について

2) 庶務報告

① 第1回運営委員会

日時：令和2年6月13日（土）

開催方法：オンライン形式

(1) 令和元年度事業報告

(2) 令和元年度会計報告

(3) 令和元年度会計 監査報告

(4) その他

3) 会計報告(次頁以降参照)

2. 令和3年度事業計画(案)

① 総会

日時:令和3年5月28日(金)～5月30日(日)

開催方法:オンライン形式(神戸女子大学)

② 夏期セミナー

「被服構成学の教育・研究に活かすビデオコンテンツ」(仮題)

日時:令和3年8月下旬

開催方法:オンライン形式

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時:令和4年1月下旬

場所:東京都武蔵野総合体育館(予定)

④ 研究例会

⑤ 部会誌43号の発行

⑥ ホームページの維持管理

⑦ その他

Ⅱ. 2019年度 被服構成学協会 夏期セミナー 収支報告書

◆夏期セミナー
収入の部

費目	予算	決算	備考
参加費	260,000	311,000	部会員 7,000円×33名 ^{※2} 一般 7,000円×8名 学生 3,000円×8名
学会活動助成金 ^{※1}	83,527	83,527	
部会会計より補助費	200,000	3,193	
大学より補助金	50,000	100,000	
合計	543,527	497,720	合計49名

※1: 実質入金額(徴収税を抜いた額)83,527-10,232=73,295

※2: 名誉部会員2名含まない

支出の部

費目	予算	決算	備考
1 会場費	0	0	
2 講師謝礼	120,000	90,000	講演30,000×2名 20,000×1名 5,000×2名
3 消耗品	70,000	32,234	休憩茶菓子代、講師(懇親会費)、封筒代、インク代
4 通信運搬費	10,000	21,433	各通信費
5 印刷費	10,000	0	
6 要旨集作成費(印刷代)	70,000	61,452	100部
7 旅費交通費(実行委員メンバー)	20,000	9,800	
8 会議費	70,000	25,000	実行委員会2回分
9 支払負担金	15,000	432	振込手数料
10 臨時雇賃金	9,000	48,720	学生アルバイト
11 予備費	50,884	0	懇親会費補助
12 バス賃借料	135,000	137,980	送迎、見学費
合計	579,884	427,051	
差引残高		497,720-427,051=	70,669

◆見学会

収入の部

費目	予算	決算	備考
見学费	0	55,200	部会員1,200×31名 一般 1,200×8名 学生 1,200×7名 合計46名
合計	0	55,200	

支出の部

費目	予算	決算	備考・領収書No.
お茶代	0	5,760	No.13-1
お菓子代		6,900	No.13-2
お弁当代	0	40,500	No.13-3
合計	112,000	53,160	
差引残高		55,200-53,160=	2,040

◆懇親会

収入の部

費目	予算	決算	備考
懇親会費	150,000	240,000	部会員¥6,000円×37名 一般 6,000円×3名
お祝い金		40,000	鳴海先生高部先生より
合計	174,000	280,000	

支出の部

費目	予算	決算	備考・領収書No.
食事・飲み物、他	150,000	268,750	No.14-1
支払負担金	0	432	No.14-2
合計	112,000	269,182	
差引残高		280,000-269,182=	10,818

◆徴収税

内訳	金額	備考
講師謝礼徴収税	10,232	3,411×2名 2,274×1名 568×2名
講師交通費徴収税	0	
合計	10,232	

日本家政学会本部会計に納入いたしました。
※実際は本部から上記金額を引いた金額を受領

◆残金

2019年度 夏期セミナー残金

0円

2020年3月31日

会計 井口彰子

井口 大塚有里

十一玲子

小野寺美和

2019年度 被服構成学協会 収支計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：円)

科目	注意	予算	決算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		380,000	334,500	45,500	正76名、学生1名、過正5名、次正2名
会誌購読料				0	
大会等参加費		520,000	606,200	▲86,200	夏参311,000、見55,200、懇240,000
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)		100,000	▲100,000	滋賀県立大学より
一般寄付金	活動全般に使用した寄付金		208,000	▲208,000	夏瑞海先生、高部先生各2万円、データブック代168,000
特別寄付金	使途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	11	▲1	8/19 5円、2/17 6円
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為に通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	170,000	96,891	73,109	夏83,527、研例13,364
経常収益計		1,070,010	1,345,602	▲275,592	
(2) 経常費用					
①事業費		973,000	987,858	▲14,858	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		40,000	0	40,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	220,000	113,596	106,404	夏100,232、研例13,364
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	50,000	147,780	▲97,780	夏実行委員会9,800、バス賃借料137,980
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	180,000	354,576	▲174,576	夏茶菓代池32,234、見53,160、懇269,182
セミナー・講演会等印刷費		15,000	0	15,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		60,000	61,452	▲1,452	夏100部
セミナー・講演会等通信運搬費		20,000	21,433	▲1,433	夏通信費
セミナー・講演会等臨時雇賃金		20,000	48,720	▲28,720	夏学生アルバイト
学会誌等関連印刷費		100,000	86,103	13,897	部会誌
学会誌等関連通信費		5,000	0	5,000	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励費等	30,000	19,816	10,184	ものづくりフェア関連
関連学会等会費		10,000	30,000	▲20,000	全日本中学校技・家研協賛広告
会議費		100,000	25,000	75,000	夏25,000
広報費		35,000	34,868	132	HP関連34,868
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	80,000	34,680	45,320	監査時30,310、ものづくり4,370
事務委託費				0	
支払負担金		3,000	2,004	996	夏432、振込手数料1,572
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	7,830	▲2,830	ものづくり材料代7,830
②管理費		20,000	13,825	6,175	
給料手当				0	
福利厚生費				0	
旅費交通費	(本部のみ)			0	
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	10,000	11,745	▲1,745	払込料負担金10,311、切手代1,434
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	5,000	2,080	2,920	USB990、レターバック3部1,090
光熱水料費				0	
雑費	(本部のみ)				
租税公課	(本部のみ法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)			0	
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	0	5,000	
修繕費				0	
減価償却費	(本部のみ)				
リース料				0	
事務所管理費				0	
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		993,000	1,001,683	▲8,683	
当期経常増減額		77010	343919	▲266,909	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでほぼ該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		77010	343919	▲266,909	
一般正味財産期首残高	(2018年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	1,708,029	1,708,029	0	
一般正味財産期末残高	(2019年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	1,785,039	2,051,948	▲266,909	

貸借対照表
(2020年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金	17,762	51,338	▲ 33,576
普通預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)	1,271,930	1,186,624	85,306
通常預金			
振替口座(ゆうちょ銀行〇一九)	762,256	470,067	292,189
流動資産合計	2,051,948	1,708,029	343,919
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)			0
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	2,051,948	1,708,029	343,919
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金			0
負債合計			0
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	2,051,948	1,708,029	343,919
負債及び正味財産合計	2,051,948	1,708,029	343,919

会計監査報告書

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 大塚 美智子 様

私ども監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度の部会の重要な会計に出席するほか、専断報告を開き、重要な書類を閲覧し、主要な調査を行い、かつ当該事業年度に係る計算書類について監査を実施した結果、次のとおり報告します。

1. 専断報告は信頼に足り、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 貸借対照表は2019年度末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 正味財産増減計算書は2019年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 役員職務遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

2020年 4月10日

一般社団法人 日本 家 政 学 会
(監 査 網 成 学) 部 会

監 事 森 由 乳 (印)

監 事 大塚 美智子 (印)

2020年度 被服構成学協会 収支予算書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	注 意	2020年度予算	2019年度予算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		350,000	380,000	▲ 30,000	
会誌購読料				0	
大会等参加費		50,000	520,000	▲ 470,000	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使用してよい寄付金	100,000		100,000	
特別寄付金	用途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	10	0	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	85,000	170,000	▲ 85,000	
経常収益計		585,010	1,070,010	▲ 485,000	
(2) 経常費用					
①事業費		548,000	973,000	▲ 425,000	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		20,000	40,000	▲ 20,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	80,000	220,000	▲ 140,000	
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	50,000	50,000	0	
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	45,000	180,000	▲ 135,000	
セミナー・講演会等印刷費		10,000	15,000	▲ 5,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		30,000	60,000	▲ 30,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		20,000	20,000	0	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		20,000	20,000	0	
学会誌等関連印刷費		100,000	100,000	0	
学会誌等関連通信費		5,000	5,000	0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	30,000	30,000	0	
関連学会等会費		10,000	10,000	0	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	25,000	100,000	▲ 75,000	
広報費	ホームページ等	60,000	35,000	25,000	
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	30,000	80,000	▲ 50,000	
事務委託費				0	
支払負担金	振込手数料	3,000	3,000	0	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	10,000	5,000	5,000	
②管理費		20,000	20,000	0	
給料手当				0	
福利厚生費				0	
旅費交通費	(本部のみ)			0	
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	10,000	10,000	0	
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	5,000	5,000	0	
光熱水料費				0	
雑費	(本部のみ)			0	
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)			0	
地代	(本部のみ)			0	
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	5,000	0	
修繕費				0	
減価償却費	(本部のみ)			0	
リース料				0	
事務所管理費				0	
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)			0	
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		568,000	993,000	▲ 425,000	
当期経常増減額		17,010	77,010	▲ 60,000	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでば該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		17,010	77,010	▲ 60,000	
一般正味財産期首残高	(2019年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,051,948	1,708,029	343,919	
一般正味財産期末残高	(2020年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,068,958	1,785,039	283,919	

お 知 ら せ

1. 部会費について

令和3年度の被服構成学部会費（正会員：4000円、学生会員：2500円、永年会員2000円）は、5月中に下記郵便払込み口座にご送金くださいますようお願い申し上げます。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部会

なお、会費に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

文化学園大学 井口彰子 宛

TEL・FAX：03-3299-2352

E-mail：a-iguchi@bunka.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記にお願いいたします。

〒102-8357 東京都千代田区三番町12

大妻女子大学 短期大学部 中村邦子 宛

TEL・FAX：03-5275-5266

E-mail：nakamuraku@otsuma.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照ください。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっておりますので、部会への手続きも併せてさせていただきますようお願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力いただきありがとうございます。アドレスをお持ちの方で、まだご登録いただいていない方は、令和3年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです。また、アドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

ご案内

令和3年度 夏期セミナー 予告

テーマ「被服構成学の教育・研究に活かすビデオコンテンツ」(仮題)

令和3年度の夏期セミナーは、東京オリンピック・パラリンピックの開催と重なり、さらに新型コロナウイルス感染拡大防止を視野に入れなくてはなりませんのでオンラインでの開催といたします。

昨年4月の緊急事態宣言の発出以降、遠隔授業が余儀なくされ、学習管理システムやWeb会議システムのような情報ツールが活躍しました。また、実験や実習の解説には動画が最適であることが再認識され、これまで以上に動画を活用するようになりました。動画は今後も大学のオープンキャンパスやプロモーションビデオなど、あらゆる場面で需要が高まると予想されます。近頃は特別な機材が無くても簡単に動画撮影や映像編集ができるようになりました。本セミナーではあらためて動画の作成法や活用法を専門の方に解説していただき、一歩前進した動画教材の作成に活かせる情報を提供したいと考えております。

日程 2021年8月下旬(詳細は決まり次第お知らせします)

会議システムによるオンライン開催

夏期セミナー実行委員長
東京家政大学 田中 早苗

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する原則として一般社団法人日本家政学会会員で、本会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生。
 - 3 名誉会員 元部会長、または、特に本会の発展に寄与した会員で、70歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
 - 4 永年会員 一般社団法人日本家政学会会員の永年会員。
- 第5条（会費） 会員は年会費を納入する。
- 1 年会費は次のとおりとする。

正会員	4,000円
学生会員	2,500円
永年会員	2,000円
 - 2 名誉会員は会費を納めることを要しない。
- 第6条（入会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第7条（退会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。この場合、既納の会費は返却しない。
- また、継続して2年間会費を滞納した場合は、原則として退会したものとみなす。
- 第8条（役員） 本会に次の役員をおく。
- | | |
|------|-----|
| 部会長 | 1名 |
| 副部会長 | 若干名 |
| 運営委員 | 若干名 |
| 監事 | 2名 |
- 第9条（役員を選任） 役員を選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。

第 10 条（役員の任期） 1 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
2 役員の再任については、申し合わせを別に定める。

第 11 条（役員の職務） 役員の職務は次のとおりとする。
1 部会長は本会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。
2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。
3 運営委員会は本会の業務を運営する。
4 監事は本会の会計監査を行う。

第 12 条（役員の解任） 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。
1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 13 条（会 計） 本会の会計は次のとおりとする。
1 経費は会費、その他をもってまかなう。
2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 14 条（規約の改廃） 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

- 1 施行に関する内規は別に定めることができる。
- 2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。
- 3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。
- 4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。
- 5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。
- 7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。
- 8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。
- 9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。
- 11 この規約の一部改正の施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。
- 12 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 3 月 14 日からとする。
- 13 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 5 月 28 日からとする。
- 14 この規約の一部改正の施行は平成 30 年 2 月 27 日からとする。
- 15 この規約の一部改正の施行は令和 2 年 3 月 6 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

令和2・3年度役員

部会長 森下 あおい 滋賀県立大学
副部会長 渡部 旬子 文化学園大学(非)
田中 早苗 東京家政大学
村上 かおり 広島大学

運営委員

(庶務) 中村 邦子 大妻女子大学
短期大学部
石垣 理子 昭和女子大学
土肥 麻佐子 文教大学

(会計) 井口 彰子 文化学園大学
大塚 有里 東京家政大学
水嶋 丸美 名古屋学芸大学

(企画) 薩本 弥生 横浜国立大学
渡邊 敬子 京都女子大学
滝澤 愛 椋山女学園大学

(広報) 丸田 直美 共立女子大学
柴田 優子 和洋女子大学
武本 歩未 日本女子大学

(編集) 末弘 由佳理 武庫川女子大学
十一 玲子 神戸女子大学
小野寺 美和 甲南女子大学

(監事) 大塚 美智子 日本女子大学
川端 博子 埼玉大学

事務局 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 人間文化学部
TEL : 0749-28-8425
E-mail : morishita@shc.usp.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日	
	ローマ字			
	氏名	氏	名	
	西暦	年生	性別	男・女 (どちらかを○で囲む)
家政学会所属支部				
自宅住所	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
勤務先・職名 および所在地	勤務先		職名	
	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>			
※最終学歴				
※学位				
部会誌送付先	自宅・勤務先 (どちらかを○で囲む)			

太線枠内は必ず記入してください。E-mailも必ずお書きください。※印は差支えない範囲で結構です。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出ください。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL: <http://h-kohsei.com>

編集後記

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、生活が一変し、学会活動におきましてもその影響は甚大であったと言えます。そのような中、本誌が発刊できましたことは先生方のご尽力につき、この場をお借り致しまして、御礼申し上げます。

本誌は例年、夏期セミナーの記録を掲載しておりましたが、今年度は状況を鑑み、夏期セミナーの実施は見送りとなりました。オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会並びにオンラインでの実習授業の報告等、先生方のエネルギーのお蔭をもちまして、これまでにはなかった記事を掲載する運びとなり、新しい部会誌様式を構築することができました。原稿執筆をご快諾下さいました先生方に改めて感謝申し上げます。

(末弘)

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されるなど、とんでもない1年になりましたが、第42号部会誌を無事に発行することができました。コロナ渦の中、編集にご協力とご支援頂きました先生方に深く感謝いたします。人々の生活様式が大きく変化するとともに、被服構成学における研究や教育活動の重要性を、この部会誌を通して改めて感じることができました。今後ともご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(小野寺)

令和3年3月31日発行

発行：(一社)日本家政学会 被服構成学部会

印刷：株式会社アデイス

TEL：078-265-6336